

一般質問発言通告要旨

通告者 12番 小林 幸悦

1 入見内川及び川下田川の河川改修について

昨年7月の豪雨により、西長野地区は、床上・床下浸水や農地へ土砂流入など、大きな被害を受けた。緊急処置として大型土嚢を積み上げるなどの対応がなされた。その後、災害は発生していないが、度重なる被害を受けている住民は、常に不安を抱えて生活している。現在も改修工事は行われており、危険個所への対応もしていただいているが、地域住民は、さらなる工事の加速を望んでいる。

市からも強く要望はしていただいていると思うが、今後の工事がどのように進んでいくのか、市が現在知り得ている情報などがあれば教えていただきたい。

2 防災無線について

市内で災害の危険性があるとき、情報を知る手段の一つとして防災無線がある。この防災無線の屋外設置型は、少し雨や風が強くなると、屋内ではほとんど聞こえないことは、これまで多くの方々から指摘をされている。この対応策として、「今後、戸別対応型を設置していく」とのことだったが、現在の取り組み状況を伺いたい。

特に、メールやパソコンの操作を苦手としている高齢者世帯の方々は、早い対応を望んでいる。また、「防災無線で流す情報を、もう少し多く知らせていただきたい」との声も聞かれるが、いかがか。

3 仙北市住宅リフォーム促進事業補助事業について

これまで、多くの方が市及び県の住宅リフォーム促進事業を活用して、リフォーム工事を行ってきた。今後も、リフォームを考えている方は多いようだ。

仙北市の場合、持ち家で、補助対象工事費の補助率が、一般世帯で5%の限度額10万円、子育て世帯で10%の限度額20万円となっている。そのほか、空き家購入の場合は、それぞれの条件により、限度額が30万円～40万円。これに県の住宅リフォーム促進事業を活用すれば、利用者にとっては更なる負担軽減になる。

その中で、県の補助対象は、一般世帯リフォームの場合、持ち家の耐震化、省エネ化、バリアフリー化、克雪化のリフォーム工事と、ある程度限定されているため、交付申請をしにくいこともあり、市の5%だけの申請となる場合もある。また、子育てをしながらリフォーム工事をする場合、大きな負担を伴う。

これらのことから、仙北市住宅リフォーム促進事業、一般世帯、子育て世帯の補助率と限度額の引き上げを検討できないか、伺いたい。

4 花葉館が運行するシャトルバスの地域住民利用について

今年2月定例議会での一般質問の答弁は、「市の公共交通会議を始め、各関係機関と協議を行う」とのことだったが、その後、協議は行われているのか、実現の見通しはあるのか伺いたい。

一般質問発言通告要旨

通告者 3番 高橋輝彦

- 1 秋田新幹線利用者の利便性の向上について（人が輝き安心して暮らせるまち）

第2次仙北市総合計画に掲げている、JR秋田新幹線の全列車を角館駅・田沢湖駅に停車させることは、仙北市民が長年にわたり、待ち望んでいることだと痛感しており、是非とも実現させたい計画です。そこで、次の点について質問します。

 - (1) JR秋田新幹線の全列車を角館駅・田沢湖駅に停車させるために、仙北市として、これまでどのような取り組み、働きかけをしてきたのかを伺います。
 - (2) 仙北市民が一丸となり、プロジェクト的なチームを立ち上げて、粘り強い取り組みを継続していくことが、実現に近づいていくのではないかと考えますが、この取り組みを仙北市が主導できないか、見解を伺います。

- 2 仙北市財政の健全性を確保する取り組みについて（みんなが主役共同のまち）

9月定例会では、平成29年度の仙北市一般会計歳入歳出決算認定に初めて携わり、仙北市の財政状況の厳しさを痛感しました。市長は、「財政硬直化の解消策はどうするか」との一般質問に対し、「歳入を高め歳出抑制のため、事業を厳選していく」と答弁しました。正にそのとおりでと思いますが、次の点について質問します。

 - (1) 歳入を高めるためには、市税等の徴収率向上も重要課題の一つです。本定例会の市政報告で、普通税の滞納繰越分収納率が、10月末現在で前年同月比10.4%増の14.8%との報告がありましたが、平成29年度末は不納欠損額が約2億2,900万円（前年度末は約5,200万円）に増加したことで、滞納繰越分が約3億2,300万円（前年度末は約5億3,500万円）に大きく減少しているため、収納率が向上する要素にもなり（分母が2億円も違う）、滞納繰越分については、単に収納率を前年比較するのは違和感があることへの見解。また、平成29年度に地方税法第18条第1項により（5年時効）不納欠損とした3,516件は、5年間1度も督促しなかったのかということと、平成29年度と今年度の差し押さえ件数を伺います。（平成28年度は26件）
 - (2) 「事業を厳選し、予算規模自体の縮小化を進める」としているが、歳入・歳出の総額が第2次総合計画の財政の見通しより、年々増額になっていることと、経常収支比率も目標値から年々遠ざかっていることが心配ですが、今後どのようにして第2次総合計画に近づけていくのか伺います。
 - (3) 事業を厳選していく中で、平成31年度は、総合給食センター建設事業や新角館庁舎整備事業、既存庁舎耐震工事などの大きな事業が予定されていますが、市民からの要望が多い、「道路補修などのインフラ整備」にも、力を入れた予算編成になるのか伺います。
 - (4) 市政報告にあった児童扶養手当の誤払いについては、明らかに仙北市の過失であり、仙北市が国へ返還せざるを得ないと思いますが、大きな損失になります。今後の類似

事象の再発防止対策を伺います。

3 幼児教育・保育の無償化について（優しさにあふれ健やかに暮らせるまち）

平成 31 年 10 月の消費税率引き上げに伴う経済対策として、9 項目が閣議決定されたとの報道がありました。幼児教育・保育の無償化も盛り込まれており、子育て世代にとっては、待ちに待った一人目からの無償化になりそうですが、次の点について質問します。

- (1) 無償化に向けての今後のスケジュール案などはあるのか伺います。
- (2) 市立の保育施設における無償化の財源スキームを伺います。
- (3) 現在の第二子からの無償化のような所得制限はないのか伺います。
- (4) 無償化は、3 歳から 5 歳までが対象のようですが、3 歳児として入園しても、誕生日前までは有料となるのか伺います。

4 黒沢工業団地の活用策について（誇りある暮らしをつなぐまち）

黒沢工業団地への企業誘致については、定例会の一般質問や常任委員会でも、度々取り上げられているところですが、なかなか進展していない状況にあります。

そこで、そろそろ企業誘致以外の活用策についても、検討するべきではないか、との思いがあり、次の点について質問します。

- (1) 黒沢工業団地への企業誘致の最新情報を伺います。
- (2) 企業誘致のみにこだわらず、例えば、用地の半分は国家戦略特区として、多様な業種の最先端技術開発の拠点となるような国の施設を誘致し、もう半分は人口減少対策や地元企業の振興も期待できる、格安の分譲住宅地にするなどの柔軟な活用方は考えていないのか伺います。

5 落合野球場改修工事の進捗について（個性豊かな心を育むまち）

今夏の甲子園での金足農業高校の大活躍は、秋田県民はもちろんのこと、全国の人々に大きな感動と元気を与えてくれました。改めて、スポーツがもたらす地域・人を元気にする力と大きな経済効果とを実感しました。地元の角館高校も、あまり間を空けずに 2 回目の甲子園に出場し、角高旋風を巻き起こして欲しいと願っております。

その角高が、県内外の高校との練習試合などで、数多く使用している落合球場の改修効果による、戦力強化にも期待しているので、改修工事における以下の点について質問します。

- (1) 6 月定例会の一般質問に対して、昨年度は 9 項目の改修箇所を抽出し、今年度は関係団体と協議して、具体的な改修箇所や予算、補助金等を精査し、実施設計に反映させる、との答弁でしたが、関係団体との協議が終了したのであれば、その内容を伺います。
- (2) 6 月定例会の一般質問に対して、平成 31 年度に実施設計、平成 32 年度に工事着手との答弁でしたが、課題である財源が確保され、予定どおりに改修工事が実施されるのか伺います。

一般質問発言通告要旨

通告者 11番 荒木田 俊一

1 市道の維持管理及び改良について

- (1) 市道の維持管理は、適正に行われているのか。
- (2) 財源が厳しい中での改良工事・安全施策等は、計画的に行われているのか。
- (3) 幹線道路は、観光産業に与える影響が大きいと思うが、十分か。

2 インバウンドに対応するため、市内の商工・観光業・民宿等のキャッシュレス化について。

- (1) 市内の環境は、どの程度進んでいるのか。
- (2) 支援策は。
- (3) 過大な負担をしないで進めることは出来るのか。
- (4) 2次アクセスを担うタクシー等は、どうなっているのか。

3 学習指導要領等改訂のポイントに関して

- (1) 情報活用能力（プログラミング教育を含む）について、今後、どのようになっているのか。
- (2) 今後 IT を活用した最適な学習環境整備が求められると思うが、その計画は。
- (3) 多額の財源が必要と思うが、国等の財源措置の見通しは。

4 学校適正化配置の議論は、どのようになっているのか。

5 給食費の未納について、教育委員会は、どのように捉えているのか。

一般質問発言通告要旨

通告者 13番 伊藤邦彦

1 企業誘致についてお伺いしたい。

先般11月1日の仙北市広報、市長の「まちづくり日記」を拝読させていただきました。その中で、市長が申し述べている『税の滞納や給食費の未納などで、その責任から自らを責め続けている人達がいる』と・・・

これらの解決には、『職場の確保・所得の確保を図ることだ』と申されてもいる。正しくそのとおりだと感ずるが、それを踏まえ、下記について伺いたい。

- (1) 仙北市の企業誘致に向けての現状をお知らせ願いたい。
- (2) 市の空き施設を活用し、更なる新たな起業、職場を思考できないか。
- (3) 市民有志から議会に提出された「道の駅」の請願。議会としては、厳しい農業情勢打破するためにも、必要不可欠の判断から、全会一致で採択とした。しかし、当局のその歩みは遅い。
現状と見通しを伺いたい。

2 「私たちが作る持続可能な世界」についてお伺いする。

先般「仙北市SDGs未来都市宣言」シンポジウムに参加させていただきました。意義深いひと時となった。

「世界を変える17の目標」として、貧困・飢・教育不平等・エネルギーなどが掲げられていた。

これらの問題解決には、1人ひとりの高い目線と、我慢や忍耐が必要だと感じた。

一般質問通告締め切りが迫る今、私が思う「仙北市SDGs」を思うがままに記させていただきます、当局の所見を伺いたい。

- (1) 生活ゴミの更なる分別
燃えるゴミに生ゴミ混入などいかななものか・・・燃料もCO2も増える！
- (2) 除雪体制の見直し
車には30秒回り道をしていただければ、除雪路線は相当数減るはず。
空いた時間、早目に本線移行。
- (3) 防災意識の高揚
まず恐れるは豪雨。対策は十分か・・・
- (4) 油暖房からの脱却
かつて阿部議員も申された。山多き仙北市、バイオに目を向けるべき。
ペレット暖房へ、山は片付き、樹木は成長、CO2も減るはず。
- (5) 軽自動車税に対する減免
小型エンジンやハイブリッド車への税による誘導、燃費も良し、CO2も減るはず。
- (6) 宴席料理の見直し

ユニセフが伝える飢えや貧困に苦しむ子供達・・・それに比べ、タバコを吸い、腹いっぱい食べて飲んで、メタボだ、高血圧だ、宴席料理は食べ切れず半分も捨てる。これでSDGsは進むのか・・・果たせるのか。

名乗りを上げた仙北市。そのリーダー門脇市長に期待する。

以上についてお伺いしたい。

通告番号 5

一般質問発言通告要旨

通告者 16番 高久昭二

門脇市政を検証し、イベント事業、箱物建設事業等に偏重せず、市民生活を常に重視し、市民生活を守る事業に向け門脇市政を推進することを求める。

- 1 門脇市長の海外出張等に係る諸経費、並びにその費用対効果について。
- 2 県立自然公園抱返り溪谷自然保全、及びその入り口に位置する卒田黒倉地内に新たに事業計画している水道施設建設計画について。(黒倉遺跡調査・発掘含め)
- 3 国消費税 10%引き上げに係る仙北市地域経済、市民生活に与える影響、及び仙北市の対策等について。
- 4 仙北市東京ふるさと会の更なる発展、及びふるさと納税交付金活用含め、仙北市の対応について。

一般質問発言通告要旨

通告者 2番 武藤義彦

1 空き家対策について

- (1) 市が把握している空き家は、昨年度末 477 軒ということであるが、物件の所有者・管理者には、全て連絡可能の状況であるのか伺います。
- (2) 空き家の未確認物件は、まだ存在すると思うが、所有者・市民情報以外に、定期的な確認作業は実施しているのか伺います。
- (3) 老朽危険空き家の解体に、最大 50 万円の支援事業を実施しているが、経済的理由から、補助残の支払いが困難な方への救済策は、無いものか伺います。
- (4) 豪雪による雪の堆積や、台風等による屋根材飛散は、歩行者・住民の安全確保のうえでも緊急事案であり、最小限の行政対応も必要と思うが、見解を伺います。

2 指定管理者制度について

- (1) 指定管理者制度は、公の施設管理に民間の能力を活用し、住民の利便性向上と経費の節減などを図ることを目的としているが、市の指定管理施設の経営状況を伺います。
- (2) 湯沢市で開催された議員研修会の講演で、指定管理者制度の導入状況や指定管理の取り消しについて、情報提供があり、県南では、横手市が 15 施設の取り消しを実施しております。仙北市でも、市民の利用形態などを踏まえた、見直しの検討時期と思うが見解を伺います。

3 水道法の一部改正について

- (1) 人口減少による料金収入の減少、施設の老朽化、人材不足などの課題を抱える水道事業に、民間の資金や能力を活用する「コンセッション方式」により、施設の所有権は自治体、運営権は民間に付与できる仕組みの導入が議論されております。民間が参入するのは、採算性のある人口の多い大都市などに限られると思うが、現時点での当局の見解を伺います。
- (2) 厳しい水道事業の現状や、今後の使用料などについて、市民への情報発信が必要、と考えるが見解を伺います。

4 臨時・非常勤職員の待遇について

市では、「2020 年から会計年度任用職員制度を導入する」としてしています。まだ準備期間の段階と思いますが、概要について伺います。

一般質問発言通告要旨

通告者 15番 八 柳 良太郎

1 平福美術館の館蔵品の充実について

教育長報告にありました、平福記念美術館について質問いたします。

10月2日～11月18日まで「開館30年記念平福穂庵・百穂父子展」が開催され、今回初出展された作品もあり、期間中2,060人の多くの方々から来館いただいた、とあります。

私も拝見させていただきましたが、開館記念展示作品は、館内いっぱいには並んだ作品の多さに加え、一つひとつがすばらしく、やはり日本画を代表する巨人の一人であろうと思われました。特に穂庵が書いた「乞食図」は、私でも言葉を呑みこみ、あっと驚く程の出来栄えでした。

会期が2週間程過ぎた頃に、記念美術館では大変な協力を頂いている業者の方から、穂庵の作品の出物があるとのことで案内をもらい、その業者主催の展覧会に出かけました。

10月24日水曜日から、あるデパートで始まる会期一週間程の展覧会であり、初日に見に行きました。これがその出物です。当美術館の専門家に携帯で写した画像を見てもらい、美術年鑑と照らし合わせ、その美術品の評価をお聞きしました。本物であり安いのではないかということでしたので、私から「良い出物があるから買った方が良いのでは」と話を持ちかけ、その方から館長に話をしてもらいました。館長も業者の方に購入を持ちかけたようでした。

しかし、結論からすると10月28日、日曜日に客がつき、29日、月曜日には購入者がほぼ決まってしまったと。つまり当美術館の所蔵品にはならなかったのであります。

開館30周年を迎えた関係者の方々や、末裔の方々、この美術館を、更に大きく飛躍させたい、と思っているに違いありません。

以上のことから、次の点について、改善策を含めた御所見を伺います。

- (1) “良い作品が出た”という情報は、これまで何度あったのか。
- (2) 情報をもらった時点で、どのような対応を取られたのか。
- (3) 今回のような場面に何度か遭遇していると思うので、逃さず購入するには、どうすれば良いのか、具体策を伺う。
- (4) 30年前の開館時の年間入館目標は、何人だったのか。現在はいくらか。
28年度、29年度入館者実績は。入館者数と無料入館者数は。
- (5) 運営審議会委員の氏名と年間開催日数は。(ここ10年間)
運営審議会での主な質疑内容は。
- (6) 館蔵品充実のため、美術作品等購入基金は、過去どのように活用されたか。
購入品名と購入金額、購入年月は、購入の際の基準は。
- (7) 東北の美術館・博物館をインターネットで検索したら、12月オススメラランキング30件中25番目にランキングされていた。そのインターネットの頁では、当館も含めて中身の紹介が少ない施設が多かった。

しかし、展示物が類推される施設も多少あった。当館も、館蔵品の中から、一枚を画像で提供し、丁寧な案内をして、平福記念美術館の入館者増につなげる考えはないか。

2 伝承館前ポケットパークの活性化について

観光シーズン中、伝承館前の駐車場は、ほぼいつも満車状態です。

入口の看板には「お知らせ。ここの駐車場は公用車、許可車両車の専用駐車場です。万一、無断駐車した場合は、強制撤去しますので、絶対駐車しないでください。その他の車両は、桜並木駐車場を御利用下さい。管理者仙北市」とあるが、ほとんど管理されず、一般車両が多いようで、伝承館に関係する車両が、止められない場合が多々あるようです。そこで質問します。

- (1) 管財での管理は、どうしているのか。直接管理期間、見回り期間、時間は、どうなっているのか。
- (2) 行事、イベント時の関係者の駐車の利用をどう確保しているか。
伝承館において、仙北地域振興局や県南町村、県関係の公的な方々が参加する場合、誠に恥ずかしい思いをするそう。
- (3) その対策であるが、さくら祭り期間中だけであった許可証を、さくら祭り期間外にも使えるようにする。駐車台数 18 台中 9 台分を、赤のカラーコーンをおいて区別し、伝承館(約 20 万人利用)の使用、並びに関係団体の利用をはかり、常に使いやすい市民の施設にしたらどうか。残りはトイレ使用の短時間駐車と銘打っておけば、駐車場の活性化になるのでは。
- (4) 観光客の利便強化につながるポケットパークの洋式化(2019 年度予定)は、花見のシーズン開幕に間に合うのか。

3 観光行事について

(1) 角館のおまつりについて

今年の角館のお祭りは、天候に恵まれなかったこともあり、観光客数がいままでの最低を記録しました。更に二日に亘って計画された「観光やまぶっつけ」では、時間が過ぎても 3ヶ所で観光激突が出来ませんでした。観客に対し、大変失礼な、憂うべき事態となり、全体の反省会でも、観光協会から、激しい叱責意見が出たほどでありました。そこでお尋ねいたします。

- ① このままの観光行事で良いのか、改善するとすれば、何が課題であるか。
特に、ガバナンスが無くて良いのか。
- ② 市民の意見代表の議会選出議員が、実行委員会から外されたままで良いのか。

(2) 新・秋田の行事について

大変好評であった新・秋田の行事は、経済効果もかなりあったと聞いています。次の点について伺います。

- ① 昨年、我が市がこの行事を断った、と聞いているが、何が原因だったのか。
- ② ザックリとした経済効果は、いかほどか。
- ③ 来年もこの行事を続けるべき、と考えるが、どうか。何が問題か。